

豊丸産業「トレパチ」 認知症予防

ピックアップ

豊丸産業（名古屋市中村区）は7日から9日までの間、大阪市住之江区・南港のインテックス大阪で開催された「CareTEX（ケアテックス）関西2016」（ブティック主催）にブースを出展。認知症予防を目的としたレクリエーション機器「トレパチ」と、新たにリリースが決定した「エアロビクトレパチ」を出品した。

同イベントは、介護用品や介護施設向け設備・機器およびサービスが一堂に集まる西日本最大クラスの企業向け展示会。当日は、近畿圏内の企業を中心に九州、東海地区など幅広いエリアから主要企業200社が参加するなか、介護業界関係者をはじめ多くの人々が訪れた。

なお今回、同社ではトレパチの展示を通じて施設への導入促進や、製品のさらなる普及に向けた代理店の募集などを展開。多くの来場者の関心を集めた。

トレパチは、パチンコ遊技機製造で培った同社の技術やノウハウを、もっと社会に役立てることはできないかとの思いから



「楽しみながら認知症予防」。豊丸産業のブースは来場者の高い関心を集めた

開発をスタート。認知症の予防や進行に歯止めをかけるためには、薬餌療法だけでなく精神面に訴えかける「情動療法」が必要だといわれる背景で、パチンコ遊技において、高齢者が能動的に動き、考え、刺激を受けることで脳を活性化させる事実（研究報告など）に着目した。

同社では、パチンコの音や光、リーチがかかって「当たるかも!？」というドキドキできるゲーム性はまさに情動療法に適した内容と判断。介護施設向けにその要素に特化した工夫を施し、トレパチを作り上げた。

一方、12月からリリースが決定した「エアロビクトレパチ」は、玉を飛ばす仕組みにハンドルではなく、エアロバイクなどの運動器具を採用。漕いだり歩いたり、体を動かしながら玉を

飛ばしてパチンコを楽しむ。

あくまでも高齢者の利用を想定しているため、ペダルの重さなどはユーザーの筋力レベルで調整し、無理のない適度な運動の提供と、パチンコによる楽しい刺激の相乗効果が期待できる。ちなみに、導入に際しては、エアロバイク・足こぎペダル、ウォーキングマシンの3種類から選択可能だ。

「高齢化社会が進む現在、若年層ユーザーの獲得に目を向けることも大切だが、高齢者の受け皿となる娯楽の提供も必要」と永野光容社長。トレパチを通じて、高齢者が元気で気概を持って生きられる社会づくりへの寄与に期待を寄せた。

遊技産業の存在が社会課題解決の一助となる日も、そう遠くない。